

研究開発報告：総評

総合情報処理センター長 吉 岡 良 雄

センター研究開発費は、平成6年度総合情報処理センター設置時にセンターの知的財産を増やし、その財産を多くの方々に利用してもらうことを目的として創設した。そして、平成8年度のATMネットワーク導入に伴い、その有効利用を目的に、動画を配信できるVODシステムの導入を行ったが、コンテンツのライセンス料が非常に高く購入が不可能であった。そこで、教育あるいは研究を目的とした動画コンテンツ作成を中心に学内から募集し、センター研究開発費の配分を行ってきた。

今回センター研究開発費による成果報告会において、4件の発表があった。1件目は、NEC製のL e c s s が多機能であるが非常に使いづらく評判が悪かったことから、パソコン利用の授業における出欠だけを集計する“教育支援システムの開発（医学部・松谷）”の報告である。この出欠はホームページブラウザソフトで学内のどこからでも閲覧できる。このようなソフトは、高校や大学・短大などの教育機関で必要なものであり、センターの財産だけということではなく、地域共同研究センターを経由して、企業への技術移転や販売を行うことを考えた方がよいと考える。

2件目の“地震動の時空間分布の表示（理工学部・片岡）”および3件目の“VODシステムによる動物の発生及び再生コンテンツの作成並びに本邦産プラナリアのデータベースの構築（農学生命科学部・石田）”は動画コンテンツ作成のものであり、それぞれの研究内容を視覚化することによって、一般人にも容易に理解できるような教育効果を狙ったものである。このようなコンテンツは、研究発表における高いプレゼンテーション効果を得ることができるとともに、授業での利用や自習などにおける学生への教育効果においても非常に高いといえる。このことは、VODシステムネットワークシステムの効果的な利用につながり、好ましいことと思われる。

4件目の“動画データのリアルタイム配信システムの開発（センター）”は、リアルタイムに送られてくる衛星放送を、人の手を介さずに必要な番組を切り出し、VODシステムにコンテンツとして自動的に登録できるシステム構築を行ったものである。現在、BBC放送を衛星から直接受信し、学内情報ネットワークを介して配信しており、英語教育にも一部利用しているが、必要な番組を必要な授業時間内にみることができない、などの問題があり、このようなシステム構築が必要になった。また、このようなシステム構築のノウハウは、各方面で必要とされるので、1件目と同様、企業への技術移転等を考える必要があるだろう。

今回の4件は、非常に有意義な成果であり、満足のいくものである。今回の成果報告を聞いて、センターを中心として多くの研究テーマが存在することを再認識し、センターに研究部門の必要性を改めて感じた次第である。